

# [シラス]

## 1. 経年経過及び平成16年1～2月期の漁況の経過

### 【西薩海域，志布志湾海域】

バッチ網漁業の漁獲量は，西薩海域では平成11年の6,060トン进行減少傾向を示しており，平成14年は1,106トン，平成15年は低調であった前年並みの937トン(一部漁協未集計)でした。志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行減少傾向を示しており，平成14年は396トンまで減少したが，平成15年は842トンまで増加した。

今期は西薩海域では，カタクチイワシシラス主体で7トンの水揚げで，前年の-%(前年は0トン)及び平年の5%でした。

志布志湾海域では，カタクチシラス主体で149トンの水揚げで，前年の146%及び平年の73%でした。

## 2. 平成16年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は，カタクチシラスでしょう。来遊量は，西薩海域では前年を上回り，平年並みで，志布志湾海域では前年を下回り，平年並みでしょう。

(根拠)

平成16年3月に実施した卵稚仔調査結果(3月1日～5日)では，カタクチイワシの産卵や稚仔魚の分布は，北西薩海域で少なかった13～15年を上回り，平年並みで，薩南・大隅東部海域では多かった前年を下回り，平年をやや下回りました。

カタクチイワシ親魚の来遊は，西薩海域では前年を上回り，平年並み，太平洋側では3月以降は高水準であった前年並みとなっています。なお，マイワシシラスは，親魚資源が全国的に低水準であり，平成16年3月の卵稚仔調査においても採集がなく，資源回復の兆候がみられないことから，漁獲は期待できないと考えられます。

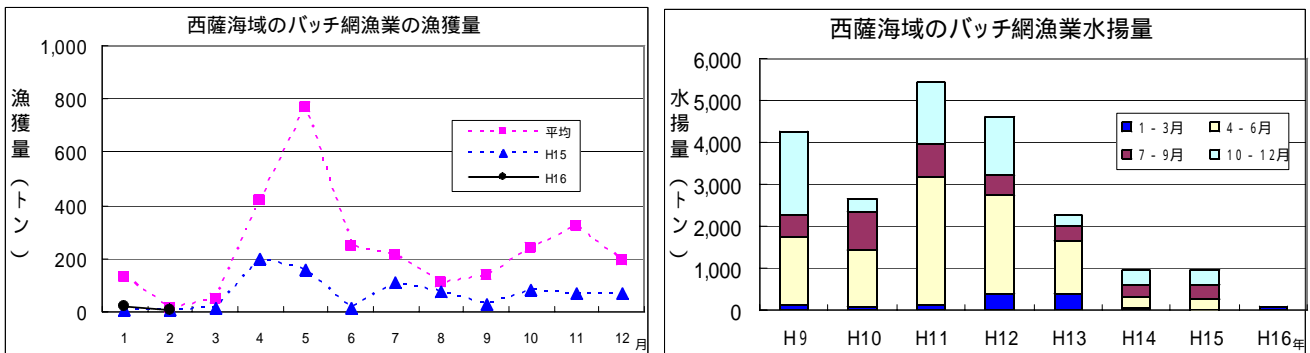


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(5漁協計)

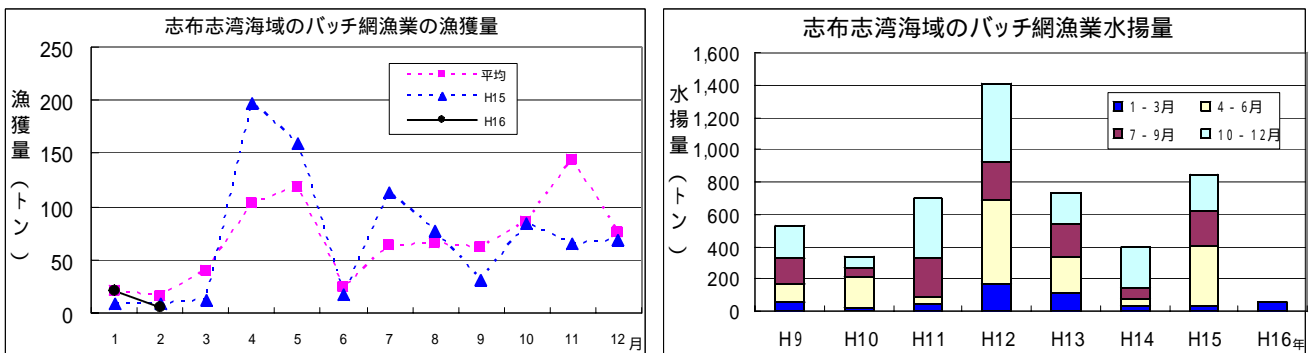


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成11～15年)の平均値，平成16年2月までの水揚量を使用。